

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人 慶成会		
事業所名	グループホーム 花みずき (葵館)(幸館)(泉館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町 2882番地		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [ai.gokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277100588&SC](http://ai.gokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277100588&SC)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物が、グループホーム「花みずき」です。入居された方が自由にのびのびと暮らしていただけるように、配慮しています。また、入居されている方と職員が、共に生活を楽しみ、暖かい雰囲気大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆったりと穏やかな時間が流れていて、利用者が落ち着いた暮らしができることが長い歴史の中で文化・伝統になっている。ほかに見えない秀逸な点であり、訪問者や見学者からもお褒めの言葉をもらえているという。また、3ユニットがそれぞれ平屋の建物で分かれ独立していて、各リーダー独自の取り組みがあることも稀なことである。これらは、管理者がリーダーに一部の権限を委譲しているからこそであって、リーダー育成にも叶っている。近隣に新施設が林立してきたことや個人事情が重なり、職員の定着率が下がってきていることが大きな課題としてあるが、全職員の知識・技術をチェックリストによって洗い出し、全体研修で行うものとユニットリーダーが指導するものに分け、具体的な取り組みを始めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆったり、よりそって」という法人の理念の下、グループホームの使命が果たせる様に経営方針を決めて、管理者と職員が共通認識に立って実践につなげていけるように取り組んでいる。	理念を記したカードを職員は携帯していて、身近に常にある。利用者に「やさしく、ゆったり、よりそって」関わりをしていることは共用空間のそこかしこにみられ、職員に浸透していることを視認した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の小中学生やボランティアの方との定期的な交流の機会はあるが、日常的な交流は出来ていない。法人内の他の事業所とは日常的に連携を取り、利用者の交流に繋がっている。	子どもたちのジャズ演奏やオカリナ同好会の訪問もあり、また同敷地内にある6ヶ所の施設(現在さらに1棟建設中)がおこなう行事に都度参加できていて、交流が豊富にある。ただし、地域との交流は課題である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が行う地域交流事業に参加することにより、事業所の役割を活かした地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回定期開催の予定だが今年度は都合により開催出来ない日もあった。民生委員や市の職員等の委員に対して運営状況などの報告や話し合いを行い、運営やサービス向上に活かしている。	予定はしていても参加者の諸事情もあり流会が続いていて、本年度はまだ2回(3回目を予定している)に止まっている。ただし、事業所の状況を知ってもらう仕組みとしては、HPの職員のブログがうまく稼働していて、家族には好評を得ている。	年間計画を作り参加者が予定を立てやすくしたり、またメンバーの層を拡げ、流会を回避することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として市の職員に参加していただき、連携を取っている。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会の理事として、浜松市との連携を取っている。	介護相談員の訪問も毎月あり、運営推進会議の参加も得ている。月～金の開催の場合は市の職員も参加してくれ、日頃から丁寧で親切な対応をもらっている。徘徊で行方不明になった高齢者を守るネットワークにも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを置き、研修への参加の機会を作り、職員への教育を行っている。また、毎月のケア会議等を通して身体拘束が行われないように注意している。	身体拘束ゼロ宣言を更新している。パーソンセンタードケアを軸とした身体拘束排除研修は新採時に必ずおこなっている。現任職員は毎月のケア会議で互いに確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加したり、事業所内での学習会を開くことにより、虐待防止を徹底できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で行う職員研修に参加することにより、権利擁護に関して学ぶ機会を作っている。また、既に成年後見制度を利用している利用者があるため、日々支援し学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約に関する説明を充分に行い、途中においても質問には丁寧に答えている。また、制度や内容が変わった時には、年2回の家族会等を通して十分に説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行う家族会では、毎回ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。また、運営推進会議へ家族代表に参加していただいたり、家族面談時等の場を利用して積極的にご意見を聞くように努めている。	初詣や七夕、ジャズ演奏会などの楽しみを加えた家族会を年4回開催している。家族からは、中庭の利用についてなど意見をもらえていて、「職員の名前がわからない」という要望には改善に取り組み始めていることを視認した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議やマネジメント会議を通して職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。また、職員面談等を通して積極的に意見を聞き機会を作っている。	定例会議などで職員意見は出来る限り採用していて、外出支援での食事代を事業所が負担することなど大半が実現している。年2回個人面談をおこなっていて一人ひとりの意見を聴く機会もあるほか、年1回トップへ直接提言できる制度もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の評価と面接を行い、年1回職員の意向調査を行うことにより、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修として、毎月1回職員研修を行っている。また、法人として職員のキャリアアップ研修を毎年実施したり、介護福祉士取得のための支援にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、浜松市介護サービス事業者連絡協議会と県グループホーム連絡協議会の理事を務めていることもあり、同業者と交流する機会を積極的に作り、参加を促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接に伺い、本人の様子を見せて頂いたり、直接お話しし、不安なことや困っている事などについても情報収集している。入所後は事前情報を基に、本人の様子や言動に気を配って関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面接や入所受入れ時などに、ご家族の要望や不安に思っていることを聞く様にし、入所後も近況報告を行って意見や感想を聞くなどして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内事業所が連携をとりながら総合的に地域のニーズに応える体制をとっているため、相談の段階でその時に必要なサービスの利用が出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と洗濯・食器洗いなど共に行い。屋内のレク活動だけでなく、お散歩や外出など通じて暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは最近の状況報告を行ったり、必要であれば電話などでも報告している。定期的に葵館だよりを家族に送付している。また、家族の絆を大切にしながら利用者本人を支える協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日などに馴染みの場所に出掛けたり、それ以外でも本人が希望すればチームで話し合い願いを叶えられる方向で企画を考えるよう努めている。	家族には電話やユニットだよりで状況を知らせ、季節行事にも毎回誘っている。また、家族が居室に宿泊することを受け入れていて、利用者との関係継続に努めている。隣接のケアハウスに通い、生け花を楽しんでいる利用者もいる。「住んでいた家を見たい」という利用者に外出計画を立てたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事などを通し、利用者が集まったり、協力しあえる環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、移られた先の施設と情報交換を行ったり様子を見に行くなどしている。家族の相談や要望を聞き、経過をフォローするよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや観察していく中で本人の思いや意向を汲み取りチーム全体で寄り添えるようケア会議などで検討し共有している。	家族の協力でセンター方式のアセスメントを作成し、以前の利用施設やケアマネージャーの情報を加えてまとめている。また、日々の気づきは申し送りに役立てるとともに個人ファイルにも記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やセンター方式の活用、家族への聞き取りを行い、生活歴や馴染みの位方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りなどで変わった姿が見られた時は、時間を掛け話したり、業務日誌などに特記事項などを記入し他の職員にもその情報が伝わるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、ケア面談の前に土台となるプランを提示し記入漏れなど赤字で記入したりして職員全員の意見を参考にし作成している。	プラン作成にあたっては気づきの記録やケア会議の内容をもとに、全職員のサインを得て完了するなどボトムアップの仕組みになっている。モニタリングやプランは定期的におこなっていて、予定より遅れて作成するパターンが定着しないことを目標としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を生活・医療に分け記入し、職員間で共有することができている。それを活用し、実践・介護計画や日々のケアの見直しに随時取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩の好きな入居者に対し一日4回お散歩に付き添いをしたり、入浴の好きな方には、できるだけ多く入浴して頂けるよう柔軟に考え対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族との外出や外泊を応援したり、定期的な小学生の訪問を受け入れ、関わりを持ち、楽しんでいる。また、法人内の事業所で地域の施設・団体と協力して夏祭りを開催し、参加し楽しんでいる。その他、地域のスーパーへの買い物などの外出を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等が希望するかかりつけ医がある場合は、入居後も継続してその医療が受けられるよう支援している。特にない場合は、施設と協力関係にある医師からの医療支援を受けられるようにしている。	入居時にかかりつけ医を替わってもらいたいとは決して伝えてはいないが、事業所の協力医であると家族の負担が少ないため、替わるケースが多い。協力医は「何かあれば駆けつけるよ」と言ってくれていて、心強い関係にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が現場にいるときには、入居者様の特変事項などを口頭だけでなく日誌に医療の記入欄を設け落としのないよう心がけている。不在の時などもパソコン・携帯メールを使用し情報提供し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本年度は、入院した入居者はいませんでした。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時や状態が変化した際に、家族と話し合い、事業所で出来ることなどを十分に説明し、その後の支援に繋げている。家族の要望を聞き入れターミナルケアも行った。	開設当初には「利用者のいいところ探し」「家族と二人三脚」に加え「看取りまで」という方針があったが、現在は安定した運営に重きをおくために「看取りはできる限り」という体制に替わっている。それでも、11年の間に3件の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の緊急時に関する研修の参加の呼びかけをしたり、緊急時マニュアルを夜間など空いた時間に読んでもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が出席出来ていないが定期的に避難訓練を行っている。災害対策の研修にも出てもらうよう呼びかけている。	夜間想定での3人(1ユニット1名の夜勤体制のため)で、隣接のケアハウスや特養からの応援を得て取り組むという設定でおこなっている。食糧は4日分(内、1日分は冷凍(蔵)給食)の備えがある。災害時の緊急避難所にもなっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉づかいや対応に十分注意している。	基本的には「さん」づけだが、家族や利用者の要望によっては「チャン」づけで呼ぶこともあり、本人本位としている。申し送りは利用者の前でしないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表現しやすいような関わり・声掛けをするように努めている。目線を合わせ、ゆっくりと声かけするなど、理解しやすいような声かけを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて全部が希望通りに行かないこともあるが出来る限り希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物に行って好きな服を選んで頂いて購入したり、定期的な理美容の段取りも行っている。判断が出来ない入居者に対しては職員が好まれる衣類の把握などし対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器洗いなど気持ちを引き出しながら行っている。ストレスになると感じれば無理強いしない。	セントラルキッチンでの宅配給食を昨年の5月にスタートしていて、地域性に絡む味つけについての要望が挙がったが、業者にすみやかに対応してもらい解決している。利用者のADL状態がまちまちなため、下膳や洗いのほかにおぼんを拭くなどできることを用意しておこなってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立て、月1回の給食会議で内容を検討し、バランス良い食事を提供している。食事形態や器など、食べやすい工夫し、水分や栄養が不足している方には、その方の好みに合わせた補助食品を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの身体の状況に合わせて口腔ケアの声掛けや支援を行っている。義歯の方は週1回洗浄剤を使用。また、月1回歯科衛生士が来館し、ブラッシング等の指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に個々の排泄のパターンの把握し対応している。パットを要する入居者に対しては時間帯によって尿量も違ってくることもあり、家族の経済的なことも考慮しパットなどセレクトし使用している。	病院から移ってきた利用者は格段に向上するが、大半は経過年数とともにゆるやかに状態が下がっている。「できるだけトイレで」という方針の下、「利用者の気持ちよさ」「家族の経費負担」に配慮した対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促せるよう職員が排便のサイクルなどチェックして把握したり、朝の水分補給時に牛乳を多く提供するよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お誘いする時に入浴の希望時間を聞いたり、ぬる湯・熱湯などの把握などをし温度調節に努めている。入浴剤なども喜ばれている。入浴したくない時は無理強いしない。	1時間前後ゆっくりとしてもらっていて1日ですべての人の対応が難しいため、清潔保持も鑑み1日おきをめやすとして体制整えている。一方で、時間帯も固定せず、毎日入りたいという要望にも応えている。ただし、夜間入浴の体制は整っていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が就寝したい時間に入床して頂けるよう、介助を要する方も様子を見て就寝介助している。居室温度や明るさ等、本人が気持ちよく眠れるよう調整し、夜間2時間おきに見回り、安心して休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に職員と看護師が付き添い、医師からの指示を職員全員に伝えている。処方された薬は職員が二重に確認し、個別管理している。処方変更した際には様子観察し、記録をとり、主治医と看護師に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の活躍出来る役割を設け提供している。気分転換についても入居者様との関わりの中で「これをやりたい。あそこに行きたい。」など日頃から言いやすい環境を作り、聴きだし反映させている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日より外出できない時もあるが、お散歩や買い物、外食、季節に応じた行楽など家族にも声を掛け企画し手伝ってもらいながら一緒に楽しんでもらっている。	散歩コースもあり、玄関前のテーブルセットで昼食をとったりと、戸外へでることを心がけている。初詣、モクレン、ツツジなどの花見、風祭り、ホタル狩り、蜜柑狩りなど、季節行事の外出も豊富にある。法人で畑を購入したので、その活用も検討中である。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方にはお金を所持して頂き、使用して頂いているが、殆どの方が自己管理するのが難しく、使用する機会があまりない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が了承していれば自由に電話を掛けられる。居室に電話を引いている入居者もいる。手紙については暑中見舞い・年賀状など家族宛てに送るよう促しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間など入居者と共に掃除できる箇所は一緒に行っている。電気などの取り換えなど出来ない部分については職員が設備管理している。トイレと解りやすいようにトイレのノブに人形が掛けてある。	昼光色の照明をはじめ鉢植えなど家庭にあるものがそこかしこにあり、また職員の対応も穏やかなため、事業所であることをしばし忘れる空間がここにはある。加湿器を充分備えていて、換気も定期的におこない、健康管理にも留意していることが視えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファセットを置き、廊下や玄関・玄関先にもベンチ等を設置して、いつでも誰でも使用できるようにしている。介助を要する方も、居心地良い場所に居られるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居する前の住んでいた部屋の環境に近いものにする為、家族にもその旨を説明し家具の配置・ベッドの位置・ゆかりの深いものなど持ってきてもらい飾ってもらっている。	なじみの古い筆筒や小型冷蔵庫などが置かれ、家族写真やつり雛などを飾り、その人それぞれの好みの居室づくりがなされている。掃除はできる人には手伝ってもらいながら主に職員が責任をもっておこなっていて、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口のドアには、一人ひとり違う色が使用されており、表札には名前と一緒に本人の写真を入れて、自分の居室だと認識しやすくしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆったり、よりそって」という法人の理念の下、グループホームの使命が果たせる様に経営方針を決めて、管理者と職員が共通認識に立って実践につなげていけるように取り組んでいる。	理念を記したカードを職員は携帯していて、身近に常にある。利用者に「やさしく、ゆったり、よりそって」関わりをしていることは共用空間のそこかしこにみられ、職員に浸透していることを視認した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の小中学生やボランティアの方との定期的な交流の機会はあるが、日常的な交流は出来ていない。法人内の他の事業所とは日常的に連携を取り、利用者の交流に繋がっている。	子どもたちのジャズ演奏やオカリナ同好会の訪問もあり、また同敷地内にある6ヶ所の施設(現在さらに1棟建設中)がおこなう行事に都度参加できていて、交流が豊富にある。ただし、地域との交流は課題である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が行う地域交流事業に参加することにより、事業所の役割を活かした地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回定期開催の予定だが今年度は都合により開催出来ない日もあった。民生委員や市の職員等の委員に対して運営状況などの報告や話し合いを行い、運営やサービス向上に活かしている。	予定はしていても参加者の諸事情もあり流会が続いていて、本年度はまだ2回(3回目を予定している)に止まっている。ただし、事業所の状況を知ってもらう仕組みとしては、HPの職員のブログがうまく稼働していて、家族には好評を得ている。	年間計画を作り参加者が予定を立てやすくしたり、またメンバーの層を拡げ、流会を回避することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として市の職員に参加していただき、連携を取っている。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会の理事として、浜松市との連携を取っている。	介護相談員の訪問も毎月あり、運営推進会議の参加も得ている。月～金の開催の場合は市の職員も参加してくれ、日頃から丁寧で親切な対応をもらっている。徘徊で行方不明になった高齢者を守るネットワークにも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを置き、研修への参加の機会を作り、職員への教育を行っている。また、毎月のケア会議等を通して身体拘束が行われないように注意している。	身体拘束ゼロ宣言を更新している。パーソンセンタードケアを軸とした身体拘束排除研修は新採時に必ずおこなっている。現任職員は毎月のケア会議で互いに確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加したり、事業所内での学習会を開くことにより、虐待防止を徹底できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で行う職員研修に参加することにより、権利擁護に関して学ぶ機会を作っている。また、既に成年後見制度を利用している利用者があるため、日々支援し学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約に関する説明を充分に行い、途中においても質問には丁寧に答えている。また、制度や内容が変わった時には、年2回の家族会等を通して十分に説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行う家族会では、毎回ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。また、運営推進会議へ家族代表に参加していただいたり、家族面談時等の場を利用して積極的にご意見を聞くように努めている。	初詣や七夕、ジャズ演奏会などの楽しみを加えた家族会を年4回開催している。家族からは、中庭の利用についてなど意見をもらえていて、「職員の名前がわからない」という要望には改善に取り組み始めていることを視認した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議やマネジメント会議を通して職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。また、職員面談等を通して積極的に意見を聞き機会を作っている。	定例会議などで職員意見は出来る限り採用していて、外出支援での食事代を事業所が負担することなど大半が実現している。年2回個人面談をおこなっていて一人ひとりの意見を聴く機会もあるほか、年1回トップへ直接提言できる制度もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の評価と面接を行い、年1回職員の意向調査を行うことにより、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修として、毎月1回職員研修を行っている。また、法人として職員のキャリアアップ研修を毎年実施したり、介護福祉士取得のための支援にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、浜松市介護サービス事業者連絡協議会と県グループホーム連絡協議会の理事を務めていることもあり、同業者と交流する機会を積極的に作り、参加を促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接に伺い、本人の様子を見せて頂いたり、直接お話しし、不安なことや困っている事などについても情報収集している。入所後は事前情報を基に、本人の様子や言動に気を配って関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面接や入所受入れ時などに、ご家族の要望や不安に思っていることを聞く様にし、入所後も近況報告を行って意見や感想を聞くなどして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内事業所が連携をとりながら総合的に地域のニーズに応える体制をとっているため、相談の段階でその時に必要なサービスの利用が出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に洗濯・掃除などの家事を行ったり、一緒にテレビを見たり歌をうたったりと、生活を共にする者同士の関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、利用者の生活上の課題などを相談し、家族の意見も取り入れたケアに努めている。また、定期的な便りを発行し、日々の活動や生活を報告している。必要に応じて電話連絡も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人や場所の話を傾聴するよう努めている。また、可能であれば馴染みの場所などへ外出している。家族の協力もあり、知人・友人の面会もある。	家族には電話やユニットだよりで状況を知らせ、季節行事にも毎回誘っている。また、家族が居室に宿泊することを受け入れていて、利用者や家族との関係継続に努めている。隣接のケアハウスに通い生け花を楽しんでいる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事などを通し、利用者が集まったり、協力しあえる環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、移られた先の施設と情報交換を行ったり様子を見に行くなどしている。家族の相談や要望を聞き、経過をフォローするよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や日常の様子などから希望・意向を把握するよう努めている。また、困難な場合でも職員間で情報交換を行ったり、会議で検討をし、実現に向けて努力している。	心身状態が後退しないことが思いや意向の把握にもつながると捉えていて、アクティビティにも力を入れている。計算ドリルを始めたばかりだが、長谷川式で平均5点も上がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談やセンター方式の活用、家族への聞き取りを行い、生活歴や馴染みの位方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケア記録や職員間の情報交換によって、現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、職員全員で意見を出し合い、多面的かつ本人の意に沿った内容となるよう努めている。また、ケアプラン面談時に家族の意見を聞き、その後のケアプランに活かしている。	プラン作成にあたっては気づきの記録やケア会議の内容をもとに、全職員のサインを得て完了するなどボトムアップの仕組みになっている。モニタリングやプランは定期的におこなっていて、予定より遅れて作成するパターンが定着しないことを目標としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、職員間で共有することができている。それを活用し、実践・介護計画や日々のケアの見直しに随時取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じて、他の事業所で行われている華道教室に参加するなど、可能な限り希望に沿った対応ができるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族との外出や外泊を応援したり、定期的な小学生の訪問を受け入れ、関わりを持ち、楽しんでいる。また、法人内の事業所で地域の施設・団体と協力して夏祭りを開催し、参加し楽しんでいる。その他、地域のスーパーへの買い物などの外出を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等が希望するかかりつけ医がある場合は、入居後も継続してその医療が受けられるよう支援している。特にない場合は、施設と協力関係にある医師からの医療支援を受けられるようにしている。	入居時にかかりつけ医を替わってもらいたいとは決して伝えてはいないが、事業所の協力医であると家族の負担が少ないため、替わるケースが多い。協力医は「何かあれば駆けつけるよ」と言ってくれていて、心強い関係にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連絡や相談を密接にとり、必要に応じて受診をしたり、医師に連絡して指示を仰ぐなど、適切な対応が取れるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、早期退院に向けて病院関係者、家族と情報交換や相談を行うよう努めている。また、本人が安心できるように出来るだけ面会に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時や状態が変化した際に、家族と話し合い、事業所で出来ることなどを十分に説明し、その後の支援に繋げている。また、協力医師や同じ法人の事業所と連携して支援に取り組んでいる。	開設当初には「利用者のいいところ探し」「家族と二人三脚」に加え「看取りまで」という方針があったが、現在は安定した運営に重きをおくために「看取りはできる限り」という体制に替わっている。それでも、11年の間に3件の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で心肺蘇生等の講習を行ったり、看護師からの指導を受けている。また、連絡簿や医療情報のファイルを作り、速やかに対応出来るよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行ったり、災害対策の研修に参加したりと、十分ではないが職員教育を行っている。また、被災した場合の法人内の協力体制はあるが、地域との協力体制までは築けていない。	夜間想定での3人(1ユニット1名の夜勤体制のため)で、隣接のケアハウスや特養からの応援を得て取り組むという設定でおこなっている。食糧は4日分(内、1日分は冷凍(蔵)給食)の備えがある。災害時の緊急避難所にもなっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉づかいや対応に十分注意している。	基本的には「さん」づけだが、家族や利用者の要望によっては「チャン」づけで呼ぶこともあり、本人本位としている。申し送りは利用者の前でしないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表現しやすいような関わり・声かけをするように努めている。目線を合わせ、ゆっくりと声かけするなど、理解しやすいような声かけを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の気持ちを大切に、一人ひとりの希望に沿った支援をするように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時など更衣をする時には、本人の希望やその方に合わせた服を着て頂いている。また、月に1回の美容師の出張サービスでは、利用する方の好みを伝えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人その人に合ったかたちで、出来る事をして頂き、また週に1回は外食や手作りご飯の機会を設け、楽しく食事が出来るよう努めている。	セントラルキッチンで宅配給食を昨年の5月にスタートしているが、宅配に全面的に頼ることなく、できるだけ手作りの食事やおやつに取り組んでいる。積極的に職員が関わり、下膳を本人にやってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立て、月1回の給食会議で内容を検討し、バランス良い食事を提供している。食事形態や器など、食べやすい工夫し、水分や栄養が不足している方には、その方の好みに合わせた補助食品を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの身体の状態に合わせて口腔ケアの声かけや支援を行っている。義歯の方は週1回洗浄剤を使用。また、月1回歯科衛生士が来館し、ブラッシング等の指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンやトイレサインを把握し、出来るだけトイレで排泄が出来るよう支援している。また、パット等も本人が一人でトイレに行けるよう、個人に合った物を選択している。	病院から移ってきた利用者は格段に向上するが、大半は経過年数とともにゆるやかに状態が下がっている。「できるだけトイレで」という方針の下、「利用者の気持ちよさ」「家族の経費負担」に配慮した対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、排泄についての状況を職員が正確に把握し、支援に結び付けている。水分摂取や腹部マッサージ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者全員に対して、週2~3回入浴できるよう配慮している。また、夕方から就寝前に入浴介助を行い、夜間浴に取り組んでいる。気分が乗らない方は入浴日を変更し、できる限り希望に沿えるよう努めている。	1時間前後ゆっくりとしてもらっていて1日ですべての人の対応が難しいため、清潔保持も鑑み1日おきをめやすとして体制整えている。一方で、毎日入りたいという要望にも応えていて、自立の利用者の要望を反映して夜間入浴にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が就寝したい時間に入床して頂けるよう、介助を要する方も様子を見て就寝介助している。居室温度や明るさ等、本人が気持ちよく眠れるよう調整し、夜間2時間おきに見回り、安心して休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に職員と看護師が付き添い、医師からの指示を職員全員に伝えている。処方された薬は職員が二重に確認し、個別管理している。処方変更した際には様子観察し、記録をとり、主治医と看護師に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて役割を見つけ、活躍できる環境を整えている。また、感謝の気持ちを伝え、やりがいを感じて頂けるよう支援している。個人の趣味や習い事は法人内の他施設へ出かけて楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に応えることは出来ないこともあるが、季節に合わせた外出をしている。その他にも、ドライブや買い物など、利用者の気分に合わせて外出できるよう努めている。	散歩コースもあり、玄関前のベンチなどを利用して、戸外へでることを心がけている。初詣、モクレン、ツツジなどの花見、凧祭り、ホタル狩り、蜜柑狩りなど、季節行事の外出も豊富にある。法人で畑を購入したので、その活用も検討中である。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方にはお金を所持して頂き、使用して頂いているが、殆どの方が自己管理するのが難しく、使用する機会があまりない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話や手紙のやり取りができるよう支援している。普段手紙などを出すことがない方にも、暑中見舞いと年賀状をご家族宛に送るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が心地よく暮らせるよう、照明や温度を調整し、テーブルや椅子などの配置を工夫している。季節の花や飾り付けをし、装飾なども工夫している。	昼光色の照明をはじめ家庭にあるものが取り入れられていて、また職員の対応も穏やかなため、事業所であることをしばし忘れる空間がここにはある。畳の部屋も備えていて、ほぼ全員で取り組む洗濯だたみに利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファセットを置き、廊下や玄関・玄関先にもベンチ等を設置して、いつでも誰でも使用できるようにしている。介助を要する方も、居心地良い場所に居られるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族と相談し、使い慣れた家具や愛用していた物などを設置し、落ち着ける空間となるよう努めている。	入居時にはそれほど持ち込んでなかったが、家族が面会の度に脚なしソファや扇風機などを持ち込み、年を重ねてその人らしくなったという居室もあり、家族との温かな関係が覗えた。掃除はできる人には手伝ってもらいながら主に職員が責任をもっておこなっていて、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口のドアには、一人ひとり違う色が使われており、表札には名前と一緒に本人の写真を入れて、自分の居室だと認識しやすくしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしく、ゆったり、よりそって」という法人の理念の下、グループホームの使命が果たせる様に経営方針を決めて、管理者と職員が共通認識に立って実践につなげていけるように取り組んでいる。	理念を記したカードを職員は携帯していて、身近に常にある。利用者に「やさしく、ゆったり、よりそって」関わりをしていることは共用空間のそこかしこにみられ、職員に浸透していることを視認した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の小中学生やボランティアの方との定期的な交流の機会はあるが、日常的な交流は出来ていない。法人内の他の事業所とは日常的に連携を取り、利用者の交流に繋がっている。	子どもたちのジャズ演奏やオカリナ同好会の訪問もあり、また同敷地内にある6ヶ所の施設(現在さらに1棟建設中)がおこなう行事に都度参加できていて、交流が豊富にある。ただし、地域との交流は課題である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が行う地域交流事業に参加することにより、事業所の役割を活かした地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回定期開催の予定だが今年度は都合により開催出来ない日もあった。民生委員や市の職員等の委員に対して運営状況などの報告や話し合いを行い、運営やサービス向上に活かしている。	予定はしていても参加者の諸事情もあり流会が続いていて、本年度はまだ2回(3回目を予定している)に止まっている。ただし、事業所の状況を知ってもらう仕組みとしては、HPの職員のブログがうまく稼働していて、家族には好評を得ている。	年間計画を作り参加者が予定を立てやすくしたり、またメンバーの層を拡げ、流会を回避することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として市の職員に参加していただき、連携を取っている。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会の理事として、浜松市との連携を取っている。	介護相談員の訪問も毎月あり、運営推進会議の参加も得ている。月～金の開催の場合は市の職員も参加してくれ、日頃から丁寧で親切な対応をもらっている。徘徊で行方不明になった高齢者を守るネットワークにも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを置き、研修への参加の機会を作り、職員への教育を行っている。また、毎月のケア会議等を通して身体拘束が行われないように注意している。	身体拘束ゼロ宣言を更新している。パーソンセンタードケアを軸とした身体拘束排除研修は新採時に必ずおこなっている。現任職員は毎月のケア会議で互いに確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加したり、事業所内での学習会を開くことにより、虐待防止を徹底できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で行う職員研修に参加することにより、権利擁護に関して学ぶ機会を作っている。また、既に成年後見制度を利用している利用者があるため、日々支援し学びを得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約に関する説明を充分に行い、途中においても質問には丁寧に答えている。また、制度や内容が変わった時には、年2回の家族会等を通して十分に説明し納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行う家族会では、毎回ご意見やご要望を聞き運営に反映させている。また、運営推進会議へ家族代表に参加していただいたり、家族面談時等の場を利用して積極的にご意見を聞くように努めている。	初詣や七夕、ジャズ演奏会などの楽しみを加えた家族会を年4回開催している。家族からは、中庭の利用についてなど意見をもらえていて、「職員の名前がわからない」という要望には改善に取り組み始めていることを視認した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議やマネジメント会議を通して職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。また、職員面談等を通して積極的に意見を聞き機会を作っている。	定例会議などで職員意見は出来る限り採用していて、外出支援での食事代を事業所が負担することなど大半が実現している。年2回個人面談をおこなっていて一人ひとりの意見を聴く機会もあるほか、年1回トップへ直接提言できる制度もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課の評価と面接を行い、年1回職員の意向調査を行うことにより、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修として、毎月1回職員研修を行っている。また、法人として職員のキャリアアップ研修を毎年実施したり、介護福祉士取得のための支援にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、浜松市介護サービス事業者連絡協議会と県グループホーム連絡協議会の理事を務めていることもあり、同業者と交流する機会を積極的に作り、参加を促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前面接に伺い、本人の様子を見せて頂いたり、直接お話しし、不安なことや困っている事などについても情報収集している。入所後は事前情報を基に、本人の様子や言動に気を配って関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面接や入所受入れ時などに、ご家族の要望や不安に思っていることを聞く様にし、入所後も近況報告を行って意見や感想を聞くなどして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内事業所が連携をとりながら総合的に地域のニーズに応える体制をとっているため、相談の段階でその時に必要なサービスの利用が出来るように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔から行ってきていた家事を忘れないように、その利用者が出来ることをお願いし、利用者と職員が共に楽しんで生活できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは最近の状況報告を行ったり、必要であれば電話などでも報告している。また、家族の絆を大切にしながら利用者本人を支える協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊等を自由に(積極的に)していただき、ご家族や知人の訪問も心置きなく来ていただけるようにしている。また、ご家族の希望により利用者の居室と一緒に泊まることもしていただいている。	家族には電話やユニットだよりで状況を知らせ、季節行事にも毎回誘っている。また、家族が居室に宿泊することを受け入れていて、利用者ご家族との関係継続に努めている。縫物が得意な利用者へ刺し子を勧めたところ現在は刺繍に夢中になっていたり、農業をしていた人が土いじりを楽しんだりしている。事業所の新聞のほかに個人購読している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が上手く関わられるように、必要に応じて職員が間に入り関わりの支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、移られた先の施設と情報交換を行ったり様子を見に行くなどしている。家族の相談や要望を聞き、経過をフォローするよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さな変化を逃さず、その人らしい生活が送れるように援助している。その人が現在持っている意向や楽しみだけでなく、新しい楽しみや意向の発見に心掛けている。	家族の協力でセンター方式のアセスメントを作成し、以前の利用施設やケアマネージャーの情報を加えてまとめている。また、日々の気づきは申し送りに役立てるとともに個人ファイルにも記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にセンター方式のアセスメントを書いていただいたり、ご本人からお話を聞き、その人を理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人のペースに合わせて援助している。その人が出来ることを大切に、無理にやっていたくのではなく、自らやりたいと思っただけのように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と面談し、意見や意向を聞いてケアプランに反映させている。それ以外でも、必要に応じて話し合いを行っている。	プラン作成にあたっては気づきの記録やケア会議の内容をもとに、全職員のサインを得て完了するなどボトムアップの仕組みになっている。モニタリングやプランは定期的におこなっていて、予定より遅れて作成するパターンが定着しないことを目標としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別記録や申し送りノートに記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員だけでは出来ないことは、ご家族の協力も得ながら実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花みずきの中だけでなく、同法人の他事業所での季節毎の行事へ参加するなど、施設外での楽しみを作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師が月2回往診に来られ、その都度指示をもらっている。また、必要に応じて専門の病院にも受診している。	入居時にかかりつけ医を替わってもらいたいとは決して伝えてはいないが、事業所の協力医であると家族の負担が少ないため、替わるケースが多い。協力医は「何かあれば駆けつけるよ」と言ってくれていて、心強い関係にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態観察をし、僅かな変化も見逃さず、異常の早期発見に努めている。必要時は看護師や医師に直ぐに報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時や入院中のお見舞いの時に、ご家族や病院関係者との情報交換や相談に努め、利用者にとってより良い選択が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化に応じて、早い段階からかかりつけ医師との連携を取り、ご家族とは意向の確認や協力要請の話し合いを行っている。その結果により方針を定めて職員間で意思の共有を図っている。	開設当初には「利用者のいいところ探し」「家族と二人三脚」に加え「看取りまで」という方針があったが、現在は安定した運営に重きをおくために「看取りはできる限り」という体制に替わっている。それでも、11年の間に3件の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導で吸引機の操作を学んだり、心肺蘇生法の研修に参加しているが、全ての職員が出来る段階には至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者や職員で避難訓練を行っている。初期消火の訓練や避難誘導の訓練を行っている。	夜間想定での3人(1ユニット1名の夜勤体制のため)で、隣接のケアハウスや特養からの応援を得て取り組むという設定でおこなっている。食糧は4日分(内、1日分は冷凍(蔵)給食)の備えがある。災害時の緊急避難所にもなっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活を尊重し、丁寧に優しく声かけをするように心掛けている。	基本的には「さん」づけだが、家族や利用者の要望によっては「チャン」づけで呼ぶこともあり、本人本位としている。申し送りは利用者の前でしないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者その人に合わせた介護の仕方を話し合い、納得が出来るように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者その人のペースや希望を出来るだけ叶えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者と一緒に楽しみながらコーディネートしたり、「良く似合う、きれい」などと声かけをしながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや片付けなどを一緒に行っている。また、給食を止めて自炊したり、手作りおやつにしたり、外食したりと楽しめるようにしている。	セントラルキッチンでの宅配給食を昨年の5月にスタートしていて、地域性に絡む味つけについての要望が挙がったが、業者にすみやかに対応してもらい解決している。やりたいという元気な人が多いため、利用者は当番制で下膳や洗い物を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者その人の状況に合わせて、量の調整や食事形態を変えている。バランス良く盛り付けて、楽しみながら美味しく食事出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者その人の力に応じた口腔ケアを行っている。ご自分で歯磨きをされた後には、磨き残しがないように職員が確認をさせていただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の状態に合わせて、声かけをしながらトイレでの排泄を支援している。	病院から移ってきた利用者は格段に向上するが、大半は経過年数とともにゆるやかに状態が下がっている。「できるだけトイレで」という方針の下、「利用者の気持ちよさ」「家族の経費負担」に配慮した対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、少しでも身体を動かすことを大切に支援しているが、内服薬等に頼ってしまうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯は固定していない。利用者その人の状態に合わせて入浴していたらいい。	1時間前後ゆっくりしてもらっていて1日ですべての人の対応が難しいため、清潔保持も鑑み1日おきをめやすとして体制整えている。一方で、毎日入りたいという要望にも応えている。時間帯は固定していないが、夜間入浴の体制は整っていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者その人の生活リズムに合わせて、就寝や起床をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方薬を把握し、服用の際には確実に飲み込んだことを確認できている。用法、用量、副作用等の理解が出来るように、利用者一人一人の服薬ファイルを作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、趣味、買い物、散歩など楽しみや気分転換になることを日常積極的に取り入れている。また、ご家族との外出や外泊も大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブや買い物など出掛ける機会を多く作るようにしている。また、ご家族にも協力していただいている。	ADL状態に差がでてきているため、元気な利用者には戸外にでることを勧め、個々に合わせている。初詣、モクレン、ツツジなどの花見、凧祭り、ホタル狩り、蜜柑狩りなど、季節行事の外出も豊富にある。法人で畑を購入したので、その活用も検討中である。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人の買い物をした際に、職員が支払ってしまうことが多い。ご本人が直接お金を支払う機会も大切にしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いが出せるように支援している。また、利用者からの希望に応じて電話を掛ける支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に利用者の混乱を招くような物が無いようにしている。季節に合わせた飾り付けを心掛けている。	利用者がそれぞれのスペースを確保できるよう、畳の部屋には掘りごたつをおいて活用している。食後の時間には中庭に降り立った野鳥を題材に一人ひとりの発語とリレーションがさざ波のように拡がり、日頃の職員の関わりの高さが視えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の椅子や玄関先のベンチ、居間の掘りごたつ等を配置し、居場所作りの工夫をしている。また、利用者がそれぞれ思い思いに過ごせる様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の利用については特に制限をしていないため、それぞれの居室には馴染みの物が置かれ、居心地の良い空間が作られている。	洋室の部屋には窓にカーテン、和室の部屋には窓に障子がしつらえてあり、2種類の居室が備わっている。あでやかな造花やドライフラワーなどがあり、暮らしに潤いがあることを視認した。掃除はできる人には手伝ってもらいながら主に職員が責任をもっておこなっていて、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が少しでも自立した生活が出来るように、トイレや居室には分かりやすい様に表示をしているが、もっと自立への工夫を考える必要があると感じている。		